

令和7年度 キッズフロンティアV番館(児童発達支援)自己評価総括表

○保護者評価実施期間	2026年3月1日 ~ 2026年3月16日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数)	28
○従業者評価実施期間	2026年3月1日 ~ 2026年3月16日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の送り迎えやラインワークスでのやり取りを大切に、お家での悩みや小さな成長と一緒に喜び、歩んでいける関係づくりを心がけている。	手書きや個別のフォーマットが混在しており、記録の集約・共有に余分な手間が生じている。	感覚支援に関する研修や外部研究会への参加を継続し、実践と知識のアップデートを図ります。
2	スタッフ間のチームワークが良く、日々の引継ぎやミーティングを通じて情報共有が円滑に行われています。	個別面談や電話での相談対応を柔軟に設け、保護者が困ったときに気軽に相談できる関係性を築いています。	新しい支援の方法や専門的な知識を学ぶ勉強会を定期的におこない、スタッフ全員がより良いサポートをお届けできるようにレベルアップを目指します。
3	地域の関係機関との情報共有や連携会議への参加が、繁忙期には後回しになってしまうことがある。	言葉だけでなく、絵カードや写真を使って「次は何をするか」を分かりやすく伝え、お子さまが自分から進んで動けるような工夫をしている。	担当者を明確にした連携マップを作成し、定期的な情報交換の場を設けることで、地域ネットワークを強化する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者からの急な連絡対応や相談に追われ、スタッフが計画的に休憩や研修を取りにくい場面がある。	送迎時などの限られた時間内では、どうしても「その日の出来事」の報告が中心となり、長期的な視点での相談や共有にまで至らない場面が生じている。	送迎担当と室内担当を明確に分け、引継ぎ時間を確保することで、保護者への丁寧な報告を実現する体制を整える。
2	高学年と低学年のお子さまが同じ空間で過ごす時間帯があり、活動内容や関わり方の調整が難しい場面がある。	相談対応の時間帯や担当者のルールが明文化されておらず、特定のスタッフへの負担集中が起きやすい。	年齢・発達段階別のグループ活動の時間設定を見直し、それぞれに合ったプログラムが提供できるよう環境を整える。
3	個別支援計画に基づいた目標の達成状況の確認が、保護者や本人へ十分にフィードバックされていない場面がある。	計画の評価・振り返りが事業所内で完結してしまい、保護者や関係機関との共有が後回しになりやすい。	短時間でも参加できる事例検討会を定期的に設け、成功事例や困りごとを共有することで、組織全体の支援レベルを底上げしバラつきをなくす。